

感染症情報 7月2日～8日

府下小児科198医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	984例(堺市	41例)
②溶連菌感染症	502例(堺市	65例)
③手足口病	201例(堺市	3例)
④ヘルパンギーナ	189例(堺市	9例)
⑤RSウイルス感染症	122例(堺市	27例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	5例(堺市	1例)
---------	-------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週比3.2%減の2,392件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より6%減、堺市では前週と同数であった。溶連菌感染症は府下で前週より13%減、堺市で前週56例→今回65例で16%増であった。手足口病は府下で前週より30%増、堺市では前週2例→今回3例であった。ヘルパンギーナは府下で前週より25%増、堺市で1例→9例であった。RSウイルス感染症が府下で前週72例→今回122例で69%増、堺市でも前週16例→今回27例で69%増であった。府下ではRSウイルス感染症が5週連続で増加してきている。昨年よりもさらに立ち上がり早く、今後の動向が注目されるとある。

麻疹や風疹の報告はなかった。